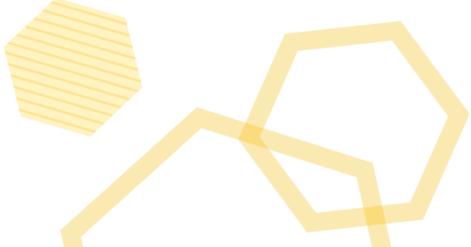


薬育プログラム

はじめよう！
セルフメディケーション

ティーチャーズガイド



本ガイドの構成

●プログラムの概要	-----	P.2
●授業の概要	-----	P.3
全プログラムのおおまかな授業の流れやワークの概要を確認することができます。		
●使用教材の一覧	-----	P.4
●薬育に関わる基本用語集	-----	P.4

授業プログラム **選ぶ** 医薬品の適切な選択と使用 -軽度な不調への対処方法-

●指導案	-----	P.5
●授業の解説	-----	P.7
●映像教材について	-----	P.8

映像教材の詳細な内容、分数などを確認することができます。

授業プログラム **活かす** 生涯を通じる健康 -医薬品の開発過程とセルフメディケーションの実践-

●指導案	-----	P.9
●授業の解説	-----	P.11
●映像教材について	-----	P.13

映像教材の詳細な内容、分数などを確認することができます。

本プログラムは、セルフメディケーションの考え方を通して、健康で豊かな生活をおくろうとする意欲と実践力の育成をめざしたプログラムです。

特長
1

アクティブ・ラーニングの手法を用いた2つのプログラム

このプログラムはアクティブ・ラーニングの手法を取り入れた2つのプログラムで構成されています。生徒は活動を通して、自分ごととして考えることができ、ほかの人の意見を聞くことで自身の考えをふりかえり、さらに理解を深めることができます。

授業
プログラム
選ぶ
【1時限】

医薬品の適切な選択と使用 -軽度な不調への対処方法-

医薬品を正しく選択し、適切に使用して、「自分の健康を自分でつくる」ための知識を習得する。

●アクティブ・ラーニング

実際の薬の箱の説明書を読み、年齢や症状に応じた、適切な薬を選びます。



中学校の保健体育の
学習指導要領に対応

授業
プログラム
活かす
【1時限】

生涯を通じる健康

-医薬品の開発過程とセルフメディケーションの実践-

適切に効果を得るための使用について学び、「自分の健康を自分でつくる」意欲を高める。

●アクティブ・ラーニング

かぜかな?と知っている友達に対する適切なアドバイスを考えます。



高等学校の保健体育の
学習指導要領
「承認制度」に対応
※中学校でもご使用いただけます

特長
2

生徒の興味・関心を高める映像教材・実物教材

生徒の生活を表現したアニメーションや実際に薬の開発に携わる人の仕事の様子などの映像教材、実物教材（かぜ薬の展開図）で生徒の関心を高めます。



アニメーション



開発に携わる6人の
インタビューなど



かぜ薬の空箱(展開図)
*実際に販売されているものとは異なる場合があります。

授業の概要

選ぶ

医薬品の適切な選択と使用 -軽度な不調への対処方法- 【50分】

P.5~8参照

医薬品を正しく選択し、適切に使用して、「自分の健康を自分でつくる」ための知識を習得する。

導入 (5分)

映像教材などを活用し、自分の健康や身体の状態に興味をもたせ、授業テーマへの関心を高める。



展開① (25分)

一般用医薬品を正しく選択し、正しく使用することの重要性を理解する。

ワーク

- タケルくんとお父さんの症状にあった薬を選ぶ。
- 選んだ薬の正しい使用方法を考える。

展開② (15分)

自分のセルフメディケーション力をチェックし、それが、社会で求められていることを理解する。

ワーク

- チェックシートを活用し、自分の身体をどのくらいわかっているか、自身のセルフメディケーション力はどれくらいか理解する。

まとめ (5分)

薬の適切な選択と使用、セルフメディケーションの視点をどのように活かすかを考える。



活かす

生涯を通じる健康 -医薬品の開発過程とセルフメディケーションの実践- 【50分】

P.9~13参照

適切に効果を得るための医薬品の使用について学び、「自分の健康を自分でつくる」意欲を高める。

導入 (5分)

「かぜかな」と感じたとき、どうするかを問いかけ、医師から処方される医薬品と薬局・ドラッグストアなどで購入できる医薬品があることを確認し、授業テーマへの関心を高める。



展開① (20分)

医薬品が手元に届くまでの過程を確認する。

ワーク

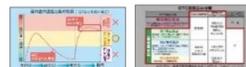
- 医薬品が手元に届くまでの順番を考える。

展開② (20分)

医薬品の適切な使用方法と、一般用医薬品を使ってセルフメディケーションをしていくことのよさを理解し、適切に使用する判断力を高める。

ワーク

- 適切な医薬品の使用方法について考える。
- 体調不良の際の対処を考える。



まとめ (5分)

学びをふりかえり、これからのセルフメディケーションの実践への意欲へつなげる。



それぞれのプログラムは、単独での実施でねらいが達成できる**完結型のプログラム**です。2つのプログラムを実施する場合は、事前に教材・指導案を確認のうえ、実態に応じてアレンジして授業実施をしてください。

※かぜ薬の空箱(展開図)およびスライド教材・映像教材中のかぜ薬は実際に販売されているものとは異なる場合があります。

使用教材の一覧

教師用

●ティーチャーズガイド（本冊子）



●スライド教材（PPT）、映像教材(WMV)

選ぶ「医薬品の適切な選択と使用」



※映像教材が3ヶ所に貼付されています。

活かす「生涯を通じる健康」

授業進行に応じて、WMVファイルを再生してください。

※スライド教材はありません。

生徒用

●実物教材



かぜ薬の空箱（展開図）
*実際に販売されているものとは異なる場合があります。

●ワークシート※模範解答を記載した教師用も収録しています。



●参考資料（PDF）



セルフメディケーションカHECK!

薬育に関わる基本用語集

◆セルフメディケーションについて

平均寿命が世界トップクラスの日本ですが、現在では寿命の長さだけでなく、その質が問われる時代になっています。

そこで注目されているのがセルフメディケーションです。世界保健機関（WHO）では「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること」と定義されています。

厚生労働省では、より多くの国民の生活習慣を改善し、健康寿命※をのばすことを目的として「スマート・ライフ・プロジェクト」を2011年（平成23年）に開始しました。また、2014年（平成26年）には改正薬事法（現在の医薬品医療機器等法）が施行され、店頭で購入できるOTC医薬品の種類も増えています。急速に高齢化が進行している日本では、社会保障制度の持続可能性を高め、個人の生活の質の低下を防ぐためにも、一人ひとりの健康づくりがますます求められています。

※ 健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のこと。

◆OTC医薬品分類表

OTC医薬品は、以下のように分類されます。

本プログラムは、自分で入手し、セルフメディケーションに役立てることを目的としているため、一般用医薬品に焦点を当てています。

OTC医薬品分類		対応する専門家	販売者からお客様への説明	インターネット、郵便等での販売
要指導医薬品 OTC医薬品として初めて市販されたもので、取り扱いに 十分注意を要するもの 。		薬剤師	書面での情報提供が義務となっている	不可
一般用医薬品	第1類医薬品 副作用、相互作用などの項目で安全性上、 特に注意を要するもの 。			薬剤師 または 登録販売者
	第2類医薬品 副作用、相互作用などの項目で安全性上、 注意を要するもの 。 ※より注意を要するものは、指定第2類医薬品。			
	第3類医薬品 上記以外の一般用医薬品。			

出典：日本一般用医薬品連合会 セルフメディケーションハンドブック

● 指導案

時間	学習活動	指導上の留意点など
<p>導入 5分</p>	<p>1. 自分の健康や身体の状態に興味をもち、授業テーマへの関心を高める。</p> <p>1) 自分の健康や身体の状態について確認させる。</p> <p>① 自分の考える「健康な状態」とはどんな状態か問いかける。</p> <div data-bbox="287 481 965 560"> <p>？ 問いかけ 皆さんが考える「健康な状態」とはどんな状態ですか？</p> </div> <p>例) 熱が出ていない、いつも通り身体を動かせる…など、自由に発言させる。</p> <p>② 映像を視聴させる。</p> <p>「選ぶ」映像 1 (1分21秒) ワークシート 1</p> <p>③ 映像をふりかえり、主人公であるタケルくんが、「健康ではない状態になった」ことを確認する。</p> <p>2) 健康を保つための方法の一つとして、一般用医薬品の使用を知り、その選択・使用方法について関心を高める。</p> <p>① かぜをひいたとき、どう対処したか自分の体験をふりかえらせる。</p> <p>② グループで意見を共有させる。</p> <p>③ かぜへの対処の一つとして、薬の服用があること、本授業ではその中でも一般用医薬品の使用に注目することを伝える。</p> <p>3) 授業のねらいを伝える。</p> <p>① ねらいを伝える。</p> <div data-bbox="279 1064 949 1142"> <p>ねらい 軽度な不調に自分で対処する力をつけよう！ (一般用医薬品の適切な使用方法を理解し、健康を自分でつくることの大切さについて知る。)</p> </div>	<p>ふだん健康について考えることがないであろう生徒に関心をもちさせるため、「健康でない状態」を具体的に映像でイメージさせ、改めて身体の健康について捉えさせる。</p> <p>※ 映像教材の内容は、P.8を参照。</p> <p>本授業では、健康でない状態の例として、かぜを扱うことを伝える。</p> <p>最近ひいたかぜ、つらかったかぜの症状など、自由に発言させる。</p> <p>※ 展開1でグループ1セット(3種類)の実物教材を使用するので、実物教材の数に合わせ、グループ数を調整する。</p>
<p>展開① 25分</p>	<p>2. 一般用医薬品を正しく選択し、正しく使用することの重要性を理解する。</p> <div data-bbox="255 1254 1165 1355"> <p>Q 発問 一般用医薬品は、どのように使用したらいいのだろうか。</p> <p>ワーク① 症状に適した一般用医薬品を選ぶワーク ワークシート 2 1)</p> </div> <p>1) 一般用医薬品は、使用上の注意を確認し、症状や状態(年齢・既往歴)に合ったものを選択する必要があることを理解させる。</p> <p>グループ タケルくんの薬を選ぶ。(ワーク3分、説明2分 計5分目安)</p> <p>① 各グループに3種類の薬の箱を配付する。</p> <p>② スライドを提示して、タケルくんの状態を読み取らせ、薬を選択させる。</p> <p>③ 選択した薬と理由をワークシートに記入させる。</p> <p>④ いくつかのグループに発表させ、全体で共有する。</p> <p>⑤ 「症状に適した薬を選ぶこと」や「自分の状態を把握する必要性」(ここでは症状と年齢)について伝える。</p> <div data-bbox="869 1534 1165 1646"> <p>タケルくんのかぜ症状に合った薬はどれだろうか。</p> <p>「かぜをひいたとき」 2つのかぜ薬から1つ選び、その理由をメモ。</p> <p>タケルくんの状態 のどが痛い 鼻水が出ている 14才</p> <p>タケルくんのかぜ薬箱 薬水・錠剤・錠剤 のどが痛い、鼻水に 効果がある</p> <p>タケルくんのかぜ薬箱 薬水・錠剤・錠剤 のどが痛い、鼻水に 効果がある</p> <p>症状に適した薬がある</p> </div> <p>グループ タケルくんのお父さんの薬を選ぶ。(ワーク4分、説明4分 計8分目安)</p> <p>⑥ スライドを提示して、タケルくんのお父さんの状態を読み取らせ、薬を選択させる。</p> <p>⑦ いくつかのグループに発表させ、薬を決定するには情報が不足していることを確認する。</p> <p>⑧ 次のスライドを提示し、持病についての情報を追加し、薬を選ばせ、選択した薬と理由をワークシートに記入させる。</p> <p>⑨ 個人の状態(アレルギーや持病、ほかの薬との併用の確認など)によって使用できない薬があることを確認する。</p> <div data-bbox="901 1713 1165 1982"> <p>タケルくんのお父さんに合った薬はどれだろうか。</p> <p>「かぜをひいたとき」 2つのかぜ薬から1つ選び、その理由をメモ。</p> <p>タケルくんのお父さんの状態 のどが痛い 熱が出ている 40才</p> <p>タケルくんのお父さんの薬箱 薬水・錠剤・錠剤 のどが痛い、鼻水に 効果がある</p> <p>タケルくんのお父さんの薬箱 薬水・錠剤・錠剤 のどが痛い、鼻水に 効果がある</p> <p>症状に適した薬がある</p> <p>● のど、熱、両方 つらい</p> <p>● 医師から高血圧と 診断されている</p> <p>タケルくんのお父さんの状態 のどが痛い、鼻水に 効果がある</p> <p>タケルくんのお父さんの状態 のどが痛い、鼻水に 効果がある</p> <p>症状に適した薬がある</p> </div> <p>2) 薬を選ぶ際のポイントを説明する。</p> <p>① 薬を選ぶ際のポイントを説明し、ワークシートに記入させる。</p> <div data-bbox="1029 1993 1165 2094"> <p>薬を選ぶ際のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自分の症状に適した薬を選ぶこと。 ● 使用上の注意を確認すること。 ● 年齢・既往歴・アレルギー・併用薬に気を配ること。 </div>	<p>ワークを通して、以下の薬の選択のポイントを理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の症状に適した薬を選ぶこと ・使用上の注意を確認すること (年齢・既往症など、個人の状態に応じた薬を選ぶこと) <p>実物教材については P.7を参照</p> <p>症状では、黄と銀の薬が該当するが、年齢によって黄の薬に絞られる。選択した理由のポイントは、「症状」と「年齢」。</p> <p>※ 生徒の反応を見ながら、スライドのアニメーションを利用し、タケルくんの情報「年齢(14歳)」を示す。</p> <p>症状では、銀と青の薬が該当する。どちらの薬も年齢条件は問題ないので、選択できない。しかし、銀の薬は、高血圧の場合のむことができないが、青の薬は、医師や薬剤師、登録販売者に相談し、のむことができる。選択した理由のポイントは、「症状」と「医師や薬剤師、登録販売者への相談」。</p> <p>薬を選ぶ際のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の症状に適した薬を選ぶこと。 ・使用上の注意をよく確認し、必要に応じて相談すること。

時間	学習活動	指導上の留意点など
展開① つづき	<p>ワーク② 一般用医薬品の正しい使用方法を考えるワーク ワークシート 2 2)</p> <p>3) 薬には主作用・副作用があり、用法・用量を守って正しく使用する必要があることを理解させる。</p> <p>グループ タケルくんとお父さんの薬のみ方を調べよう。(ワーク3分、説明1分 計4分目安)</p> <p>①箱から情報を読み取り、ワークシートに記入させる。 ②薬によって用法・用量が違うことを確認する。</p> <p>グループ 用法・用量は、なぜ決められているのだろうか。(ワーク3分、説明5分 計8分目安)</p> <p>③理由を話し合い、考えをワークシートに記入させる。 ④いくつかのグループに考えたことを発表させる。</p> <p>4) 用法・用量を守ることに對して、下記のことを説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・血中濃度と薬の効果について。 ・水またはお湯以外でのんではいけない理由。 ・主作用・副作用について。 <p>※必要であればスライド内のクイズを活用する。</p> <p>5) 薬を使用する際のポイントを説明する。</p> <p>①薬を使用する際のポイントを説明し、ワークシートに記入させる。</p>	<p>グループワークで ・用法・用量を守る必要があること ・主作用・副作用 といった、薬を使用する際のポイントを理解させる。</p> <p>説明の詳細は P.7 を参照</p> <p>薬を使用する際のポイント ・薬には主作用と副作用がある ・用法・用量を守って正しく服用すること。</p>
展開② 15分	<p>3. 自分のセルフメディケーション力をチェックし、それが社会で求められていることを理解する。</p> <p>Q 発問 セルフメディケーションは、なぜ必要なのだろうか。</p> <p>ワーク③ 自身の身体の状態やセルフメディケーション力を確認するワーク ワークシート 3</p> <p>1) 自分の状態をチェックすることを通して、自分の身体について自覚を深め、セルフメディケーションの基礎を身につけさせる。</p> <p>①映像を視聴させる。 「選ぶ」映像2(2分34秒)</p> <p>②映像をふりかえり、タケルくんが「自分のこと(既往歴やアレルギーなど)」について把握しておらず、困った状況になったことを確認させる。</p> <p>個人 「自分の身体のこと、どのくらいわかっているだろうか。」(ワーク2分、説明3分 計5分目安)</p> <p>③チェックシートを利用して自分の身体の状態(年齢、血液型、体温、既往歴やアレルギーなど)をセルフチェックさせる。 ④なぜ普段から自分の身体の状態について知っておくことよいか、説明する。 ⑤セルフメディケーションについて説明する。</p> <p>個人 「あなたのセルフメディケーション力は？」(ワーク2分、説明3分 計5分目安)</p> <p>⑥チェックシートを利用して自分のセルフメディケーション力(生活の様子、薬の使用状況など)をセルフチェックさせる。 ⑦常にセルフメディケーションをしていくことが重要であることを確認する。</p> <p>2) 現代社会におけるセルフメディケーションの重要性を理解する。</p> <p>①映像を視聴させる。 「選ぶ」映像3(2分12秒)</p> <p>②セルフメディケーションを実践することで、必要な人が必要な医療を受けられ、毎日健康で楽しく過ごすことにつながることを伝える。</p>	<p>映像教材と個人ワーク(セルフチェック)によって、セルフメディケーションの重要性を理解させる。</p> <p>※ 映像教材の内容は、P.8を参照。</p> <p>※ 生徒用教材の「セルフメディケーション力CHECK！」を活用する。時間があれば何人かの生徒にチェックシートの結果や感想を聞く。</p> <p>映像教材を用いて、社会におけるセルフメディケーションの重要性を確認する。 ※ 映像教材の内容は、P.8を参照。</p>
まとめ 5分	<p>4. 薬の適切な選択と使用、セルフメディケーションの視点をどのように活かすかを考える。</p> <p>1) 学びをふりかえる。 ①スライドを使用し、学びをふりかえる。</p> <p>2) 実践への意欲につなげる。 ①軽度な不調に対処できるようになったか、自分の生活をより健康で豊かなものにしていくために、自分がどうしていくか、考えさせる。</p> <p>ワークシート 4</p>	<p>健康を維持・管理するためには、日ごろから自身の状態をよく知り、健康維持のために自分自身が主体的に行動する(セルフメディケーション)ことが大切であり、社会福祉の視点からも求められていることを伝える。</p> <p>時間があれば、何人かの生徒に意見を聞く。</p>

● 授業の解説

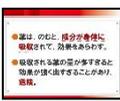
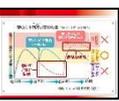
① ワーク① ② ワーク② 実物教材を使用したワーク

	黄の箱 ベンザブロックS	銀の箱 ベンザブロックL	青の箱 ベンザブロックIP
			
効能	かぜの諸症状(鼻水、鼻づまり、のどの痛み、くしゃみ、せき、たん、悪寒、発熱、頭痛、関節の痛み、筋肉の痛み)の緩和	かぜの諸症状(のどの痛み、発熱、鼻づまり、鼻水、悪寒、頭痛、関節の痛み、筋肉の痛み、せき、くしゃみ)の緩和	かぜの諸症状(発熱、悪寒、頭痛、のどの痛み、関節の痛み、鼻水、鼻づまり、筋肉の痛み、せき、たん、くしゃみ)の緩和
の ん で は い け な い 人	この薬や含まれる成分でアレルギーをおこしたことがある人	この薬や含まれる成分でアレルギーをおこしたことがある人	この薬や含まれる成分でアレルギーをおこしたことがある人
	この薬やほかのかぜ薬、解熱鎮痛薬でぜんそくをおこしたことがある人	この薬やほかのかぜ薬、解熱鎮痛薬でぜんそくをおこしたことがある人	この薬やほかのかぜ薬、解熱鎮痛薬でぜんそくをおこしたことがある人
	ワーク① Point タケルくん	15歳未満の小児	15歳未満の小児
	ワーク① Point お父さん	出産予定日12週以内の妊婦 前立腺肥大による排尿困難がある人	出産予定日12週以内の妊婦
ワーク② Point 年齢・回数	15歳以上 2錠 12歳～14歳 1錠 12歳未満は服用しないこと	15歳以上 2錠 15歳未満は服用しないこと	15歳以上 2錠 15歳未満は服用しないこと
1日服用回数	3回	3回	3回

◆ ワークの解説 ② ワーク② 一般用医薬品の正しい使用方法を考えるワーク

Point 生徒の発表が理想的であった場合は、考えを受け止め、確認する形で解説を進めます。生徒の考えが深まらなかった場合は、**3つのクイズとその答えによって理由を示す形**で解説を進めます。3つのクイズとその答えが、「なぜ、用法・用量を正しく守らなければならないのか」を考えるヒントになり、改めてグループで考えさせるようにワークを進めることもできるでしょう。

1日3回、毎食後にのむ薬を学校に持ってくるのを忘れた！お昼にのめなかったとき、夜の薬は...

正解: 昼の分は抜いて、夜の分だけのむ。
血中濃度と薬の効果の関係を、スライドのアニメーションで解説する。正しくのんだ場合は、効き目が現れる範囲内で、血中濃度を表す青い曲線のアニメーション、正しくのまなかった場合は、範囲を超えて赤い曲線のアニメーションによって、効いていない状態、危険な状態に陥ることを説明する。

薬が苦くてのみにくいので、あまいジュースで薬をのんだ。こんなのみかた、あってる？




正解: ×
薬の成分と結びついて、吸収が悪くなる場合があることを説明する。また、牛乳、ジュース、お茶・コーヒーで飲む場合について、それぞれどのような弊害があるのかを紹介し、水かお湯でのむことを指導する。

かぜをひいたうえ、胃も痛くなってきた！家にはかぜ薬も胃薬もあるけど...




正解: のむ前に薬の説明書を確認する。わからなかったら、のまない。
薬の中にはのみ合わせの悪いものがある場合があること、勝手な判断でいっしょに使うと思わぬ影響をひきおこすことがあることを説明する。そして、効き目について、主作用と副作用があることを説明します。教材ディスクの資料「セルフメディケーション実践編③-3」には、持病やアレルギーのある人は医師や薬剤師に相談する必要があることについても解説している。

●映像教材（スライド貼付）について

選ぶ「医薬品の適切な選択と使用」で使用。 ※映像はスライド教材から再生できます。

●使用する映像（スライド貼付）



※映像中のかぜ薬は実際に販売されているものとは異なる場合があります。

●映像の内容

Aパート (1分21秒)

	タケルくんの生活① 朝食時、軽く咳こんでいるタケルくんが登場。母親に咳止めを渡されるが、のまずに登校する。
	タケルくんの生活② 好物のレトルトカレーで夕食を済ませ、さらに、テレビゲームで夜更かしする。その結果、タケルくんは症状を悪化させる。

Bパート (2分34秒)

	「自分の健康を自分でつくる」の解説① 日ごろから栄養バランスのよい食事を取り、規則正しい生活をおくこと（健康的な生活）、身体の調子がよくないと感じたら、症状の軽いうちに薬をのんだり、休養をとったりして（軽度な不調に）対処することが大切。
	タケルくんの生活③ 体調が悪化したタケルくん、病院へ行く。渡された問診票を記入できず、医師の質問（平熱・既往歴）にも答えられない。
	「自分の健康を自分でつくる」の解説② 日ごろから自分の健康に関心を持ち、身体の状態を知ること、異常につながるサインに気づきやすくなる。自分の健康について、もっとも頼れるのは自分自身である。
	まとめ このように、「自分の健康を自分でつくる」という考え方や行動を『セルフメディケーション』という。

Cパート (2分12秒)

	日本の医療制度の現状 日本の医療制度は、健康保険加入者全員が毎月保険料を支払い、病気やけがをしたとき、その医療費をみんなの保険料で支え合うという助け合いの制度である。しかし今、その制度が危機を迎えている。
	少子高齢化による課題 少子高齢化によって、高齢者が増え、病気にかかる人が増えると、医療費は増加する。一方、制度を支える加入者の人口が減ると、負担が大きくなりすぎて、このしくみに無理が出てきてしまう。
	セルフメディケーションの社会的意義 そこで、『自分の身体の状態を知る・健康的な生活をする・軽度な不調に対処する』というセルフメディケーションが注目を集めている。この取組を続けることによって、医療費を減らし、適正化につなげることができる。
	まとめ 必要な人が必要な医療を受けられる社会のために、そして、皆さん自身が、毎日を健康で楽しく過ごすために、セルフメディケーションをぜひ実践してください。

● 指導案

時間	学習活動	指導上の留意点など
<p>導入 5分</p>	<p>1. 医療用医薬品と一般用医薬品があることを理解し、授業テーマへの関心を高める。</p> <p>1) 医薬品と自分との関わりを捉えさせる。 ワークシート 1</p> <p>① 生徒に、なぜかなと感じたとき、どうするかを問いかける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>Q 問いかけ</p> <p>なぜをひいたようで、体調が良くない。こんなとき、あなたは どうしますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養をとって、ゆっくり休み、自分の治癒力に任せる。 ・ 病院に行く。 ・ ドラッグストアで医薬品を購入するなど、自分で対処する。 </div> <p>② ドラッグストアで医薬品を購入し、自分で対処すると答えた生徒に、購入場所、購入した商品などを聞き、一般用医薬品の使用について具体的にイメージをさせる。</p> <p>2) 医薬品の種類を説明する。</p> <p>① 体調不良に対する薬には、医師から処方される医薬品(医療用医薬品)と薬局・ドラッグストアなどで購入できる医薬品(OTC医薬品)があることをおさえる。</p> <p>3) 授業のねらいを伝える。</p> <p>① ねらいを伝える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ねらい</p> <p>社会で自立して生活していくために、薬局やドラッグストアなどに並ぶ医薬品を、自分で正しく判断して選択・使用し、自分の健康を自分でつくる力をつけよう。</p> </div>	<p>問いかけを通して、学習前の生徒の実態を把握する。学習後に再び問いかけると、その変容を確認することができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>● 医療用医薬品とは 医師・歯科医師が使用、又は、これらからの処方・指示によって使用する医薬品。</p> <p>● OTC医薬品とは 一般の人が直接、薬局・ドラッグストアなどから購入し自らの判断で使用する医薬品。カウンター越しに薬を販売すること(Over the Counter)から、OTC医薬品と言われる。一般用医薬品のほかに要指導医薬品がある。 参照：医薬品製造販売指針</p> <p>「活かす」映像4で解説!</p> </div> <p>※ 本プログラムでは、OTC医薬品の中でも、生徒が自分で判断して購入することが多い一般用医薬品に焦点を当てている。</p>
<p>展開① 20分</p>	<p>2. 医薬品が手元に届くまでの過程を確認する。</p> <p>1) 医薬品が手元に届くまでの過程について、関心を高める。</p> <p>① 店頭で並ぶ医薬品がどのようにつくられているか知っているかを問い、本時では、製薬会社で働く6人の仕事から、医薬品が手元に届くまでを学習することを伝える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ワーク① ワークシート 2</p> <p>医薬品が手元に届くまでの順番を考えるワーク</p> <p>Q 発問 医薬品が手元に届くまでに、どのような人が、どのように関わっているのだろうか。</p> <p>個人 グループ</p> </div> <p>2) 映像教材から情報を読み取らせ、医薬品が手元に届くまでの順番を考えさせる。</p> <p>① 映像を視聴させる。</p> <p>「活かす」映像1_薬をつくる製薬会社の人々_導入(1分5秒)</p> <p>② ワークシートの、製薬会社で働く6人の仕事のキーワードと、仕事で使っている道具から、医薬品が手元に届くまでの順番を考え、記入させる。(2分)</p> <p>③ ヒントとして、映像を視聴させ、製薬会社の人々の仕事内容や仕事場所などをメモさせる。</p> <p>「活かす」映像2_薬をつくる製薬会社の人々_出題映像(3分50秒)</p> <p>④ 改めて考え直させ、ワークシートに記入させる。(2分)</p> <p>⑤ 映像を視聴させ、正しい順番D→F→B→C→A→Eを確認する。</p> <p>「活かす」映像3_薬をつくる製薬会社の人々_正解映像(5分41秒)</p> <p>⑥ 医薬品が手元に届くまでに、なぜ、これだけの人が関わっているのか、自分の言葉でまとめさせ、ワークシートに記入させる。(2分)</p> <p>⑦ 何人かの生徒に発表させ、全体で共有する。</p> <p>⑧ さまざまな人の専門的な仕事と、国の審査により、有効性や安全性が確認されていることをおさえる。 その薬を使って効果・効能を得るためには、適切に使用しなければならないということをおさえる。展開②へつなぐ。</p>	<p>医薬品が手元に届くまでに関わる人の仕事について考えることを通して、以下のことを理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 承認制度により有効性や安全性が確認されていること ・ 副作用には予期できるものと困難なものがあること <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ワークの詳細はP.11を参照</p> </div> <p>ワークで使用する映像教材は、「近くの人と比べてみてください。」など、グループワークにつながるナレーションとなっている。実態に応じて、学習活動を指示する。</p> <p>【「活かす」映像1~3の内容】 一般用医薬品の例を紹介。映像の中では、特に以下の点に着目させ、映像の視聴を通して学習内容を理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 承認制度により、有効性や安全性が確認されていること。 ・ 副作用には、予期できるものと困難なものがあり、万が一に備え、製薬会社では不断の努力をしていること。 <p>※ 映像教材の内容は、P.13を参照。</p>

時間	学習活動	指導上の留意点など
展開② 20分	3. 医薬品の適切な使用方法と、一般用医薬品を使ってセルフメディケーションをしていくことのよさを理解し、適切に使用する判断力を高める。	ワークを通して、医薬品の適切な使用方法と、一般用医薬品を使うことのメリットを理解させる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ワーク② 適切な医薬品の使用方法について考えるワーク ワークシート 3 1)</p> <p>Q 発問 医薬品、あなたは正しく使えているだろうか。</p> <p>個人</p> <p>1) 適切な医薬品の使用方法について、理解させる。</p> <p>① 医薬品を正しく使うことができているか問いかけ、ワークシートにチェックさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>Q 問いかけ</p> <p>こんな人、いませんか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品を水かお湯以外でのんだことがある。 ・ 友達からもらった医薬品を、その説明書を読まずにのんだことがある。 ・ 医薬品をのみ忘れたので、一度に2回分のんだことがある。 </div> <p>② 映像を視聴させ、医薬品の適切な使用方法を確認し、なぜ、正しく使う必要があるのかをメモさせる。</p> <p>▶「活かす」映像4_ 医薬品を適切に使用しよう(3分53秒)</p> <p>2) これからの社会では、一般用医薬品を適切に使用してセルフメディケーションを進めていくことが必要であることを理解させる。 ワークシート 3 2)</p> <p>個人</p> <p>① 医療機関を受診した場合と比較すると、一般用医薬品の使用にはどのようなメリットがあるかを考えさせ、ワークシートに記入させる。(2分)</p> <p>② 何人かの生徒に発表させ、全体で共有する。</p> <p>③ 一般用医薬品の使用は、専門家への相談や、時間的・費用的メリットなど、さまざまなメリットがあることをおさえる。ほかにはどんなメリットが考えられるかを投げかけ、映像を視聴させ、一般用医薬品の利用が社会的に求められていることについて確認する。</p> <p>▶「活かす」映像5_ 高めよう！セルフメディケーションを実践する力(3分00秒)</p> <p>※ 映像教材⑤には、ワーク③の導入映像が含まれています。</p> <p>ワーク③ 体調不良の際の対処を考えるグループワーク ワークシート 3 3)</p> <p>Q 発問 友達が、かぜかなと思っているとき、あなたは、正しいアドバイスができるだろうか。</p> <p>3) 体調不良になったとき、どのように対処するか、自らの判断を考えさせる。</p> <p>【ワークの概要】</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>友達の女の子は、昨日から熱があつて、のどが痛いようです。部活動の大会を1週間後に控え、学校を休みたくなかった彼女に、3人の友達は、「早く寝てゆっくり休む(自然治癒力に任せる)こと」「(学校を休むなどして)病院で受診すること」「ドラッグストアで相談し一般用医薬品を使用すること」を勧める。さて、あなただったら、どのようなアドバイスをする？</p> </div> <p>個人</p> <p>① ワークシートに記載されている3人の友達のアドバイスのうち、自分はどれに近いかを問い、挙手をさせ、ワークシートに記入させる。</p> <p>何人かの生徒に理由を問い、考えを全体で共有する。</p> <p>グループ</p> <p>② もっと良いアドバイスはないか、グループで話し合わせる。</p> <p>個人</p> <p>③ 最終的な個人の考えをワークシートに記入させる。</p> </div>	<p>ワークの詳細はP.12を参照</p> <p>ワークシートに記入させ、間違った医薬品の使い方をしている場合は、それを自覚させる。正しい使用方法については、映像教材で解説する。</p> <p>※ 映像教材の内容は、P.13を参照 <正しい使用方法【補足解説】> かぜ薬にはカフェインが含まれていることが多いため、コーヒーでのんではいけない。薬の成分と結びつくと正しい効果を得ることができないため、医薬品は水かお湯でのむことが必要。</p> <p>【「活かす」映像4の解説】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さまざまな種類がある。 ・ 専門家に相談できる。 ・ 自分に合った薬を選択できる。 <p>生徒から出させたいメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手軽に入手できる。 ・ 病院で待たなくてもよい。 ・ 診察費がかからない。 ・ 病院でほかの病気をもらってくるのがない。 <p>【「活かす」映像5の解説】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会全体の医療費の適正化 <p>※ 映像教材の内容は、P.13を参照</p> <p>グループで、体調不良の友達に対するアドバイスを考えることを通し、実際の状況を想定し、セルフメディケーションについて具体的に考えさせる。</p> <p>ワークの詳細はP.12を参照</p> <p>これまでの学習や映像教材(有効性や安全性が確認された一般用医薬品とその適切な使用方法、セルフメディケーションの重要性)を活かして、アドバイスを考えさせる。</p> <p>3つの選択肢について挙手をさせると、導入時と学習後の生徒の変容を確認することができる。</p>
まとめ 5分	<p>4. 学びをふりかえり、これからのセルフメディケーションの実践への意欲へつなげる。</p> <p>1) 学びをふりかえる。</p> <p>① どのようなアドバイスを考えたかを問い、何人かの生徒に発表させ、全体で共有する。よく考え、適切に判断することがセルフメディケーションを実践していくために重要であることを伝える。</p> <p>2) 実践への意欲へつなげる。 ワークシート 4</p> <p>① 授業を通して学んだこと、これからの生活で気をつけたいことを、ワークシートに記入させる。</p>	<p>どのような対処が唯一の正解であるか、ということではなく、それぞれがセルフメディケーションの視点で熟考し、自分なりに判断することが大切であることをおさえる。</p>

● 授業の解説

📌 **ワーク① 医薬品が手元に届くまでの順番を考えるワーク**

● ねらい

医薬品が手元に届くまでに関わる人の仕事について考えることを通して、以下のことを理解する。

- ・承認制度により、有効性や安全性が確認されていること。
- ・副作用には、予期できるものと困難なものがあること。

(Point) 製薬会社では、万が一に備え、販売後の情報収集など、不断の努力をしている。

● ワークの内容

製薬会社で働く6人について、ワークシートの情報やインタビュー映像をもとに、開発過程順に並び替える。

● ワークの流れ

- 1) 「活かす」映像1を視聴させ、ワークの導入を行う。
- 2) ワークシート記載の「仕事のキーワード」と「使っている道具」から考えさせる。
(Point) 「医薬品の開発にはさまざまな専門的な仕事が行われていること」に気づかせ、関心を高めることがねらい。時間をかけずに進行。
- 3) 「活かす」映像2を視聴させ、インタビュー映像から考えさせる。
(Point) 「正しい開発過程を当てること」よりも、有効性や安全性が確認されていることや副作用に対する対応など、「仕事の内容を知ること」を重視する。メモした情報についてグループで話し合わせるなどすると、考えやすい。
- 4) 「活かす」映像3を視聴させ、さまざまな人と、国の審査により、有効性や安全性が確認されていることをおさえる。
(Point) 映像の「仕事で大切なこと」「仕事にかける思い」などのエピソードは、キャリア教育としても活用できる。

【開発過程と6人の情報】

	①	②	③	④	⑤	⑥
開発過程	製品企画	基礎研究	動物試験、 臨床試験、 承認審査	生産	販売	販売後の 情報収集
	Dさん	Fさん	Bさん	Cさん	Aさん	Eさん
仕事の キーワード ※ワーク シート	データ分析	高品質の 追究	正確な資料	品質管理 と 安定供給	情報提供	・傾聴する ・伝える ・活かす
使っている 道具 ※ワーク シート						
	(Point) データを何に使うか考えさせる。 ☆動物試験・臨床試験との「ひっかけ」としても使える。		(Point) 専門書を使い、正確な資料を作成する仕事に気づかせる。 ☆具体的には映像で解説。		(Point) 「かぼん」に着目させると、「説明する仕事」が導きやすい。	
毎日の仕事 📌「活かす」映像2	市場データ、売上データ、調査データなどを収集・分析し、戦略を立案。商品名、パッケージ、価格、宣伝や営業方針も考える。		動物試験、臨床試験で 有効性 や 安全性 を確認。そのデータに対する医療の専門家からの意見をまとめ、 国の審査 を受ける手続きを行う。		薬局やドラッグストアを回り、お店の責任者と面談をして販売状況を確認し、新しい薬に関する情報を提供。	お客様からのお問い合わせに対応。製品に関する意見だけでなく、 薬をのまれた時の身体の状態などについても確認し、商品開発に活かす。
		(Point) 承認制度		(Point) 副作用には予期できるものとそうでないものがある。		
そのほか ・仕事にかける思い ・仕事で大切なこと など 📌「活かす」映像3	医薬品の効果と安全性は会社の品質。お客様の信頼を決めて裏切っちゃいけない、という思いで働いている。	サンプルを小型の機械で製造し、薬の安定性や均一性を測定して確認。製品の特徴にあった包装を検討する。	効果は？安全性は？苦しいときのみやすいか？など、常にお客様のことを考えて働いている。	原料を計量し、「造粒・混合→打錠→コーティング→印刷・検査工程」の手順で錠剤を造る。	信頼がとてとても大切。たくさんの薬の知識や、薬をのまれる方の正確な情報を必要とする仕事。	お客様が心から納得し、正しく薬を使っていただけよう努めている。

ワーク② 適切な医薬品の使用方法について考えるワーク

●ねらい

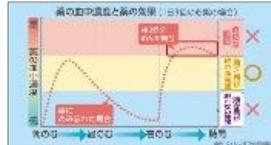
医薬品の適切な使用方法と、一般用医薬品を使うことのメリットを理解する。

●ワークの内容

映像を通して、医薬品の適切な使用方法を理解し、一般用医薬品を使うことのメリットを段階的に考える。

●ワークの流れ

- 1) 自分のふだんの医薬品の使い方をふりかえらせる。
- 2) 「活かす」映像4を視聴させ、適切な使用方法をおさえる。

自己チェック項目	医薬品を水かお湯以外でのんだことがある。	友達からもらった医薬品を、その説明書を読まずにのんだことがある。	医薬品をのみ忘れたので、一度に2回分のんだことがある。
解説 「活かす」映像4	 <p>Point 用法・用量</p> <p>薬をコーヒーでのむと、薬の効果に影響を及ぼすこともある。</p>	 <p>Point のんではいけない人</p> <p>アレルギーや既往歴によっては、使えない薬がある。</p>	 <p>血中濃度によって、効かない状態や危険な状態になってしまう。</p>

※映像中のかぜ薬は実際に販売されているものとは異なる場合があります。

- 3) 「活かす」映像4で、一般用医薬品を使うことのメリットをおさえる。

Point 映像教材で解説する3つのメリットは、ワークシートに明示。

- 4) ほかに、どのようなメリットがあるかを考えさせる。

Point 医療機関の受診と比較させるなどにより、生徒自身が**メリット**に気づくことをねらう。

- 5) 「活かす」映像5を視聴させ、**社会的なメリット**(一般用医薬品の使用が社会的に求められていること)を理解させる。

- 一般用医薬品を使うことのメリット
- ・さまざまな種類がある。
 - ・専門家に相談できる。
 - ・自分に合った薬を選択できる。
 - ・手軽に入手できる。
 - ・病院で待たなくてもよい。
 - ・診察費がかからない。
 - ・病院でほかの病気をもらってくることがない。
 - ・社会全体の医療費の適正化。

ワーク③ 体調不良の際の対処を考えるグループワーク

●ねらい

体調不良の友達に対するアドバイスを考えることを通し、実際の状況を想定し、セルフメディケーションについて具体的に考える。

●ワークの内容

かぜかなと思っている友達に対して、どのようなアドバイスをすれば良いか、グループで考える。

●ワークの流れ

- 1) 「活かす」映像5を視聴させ、ワークの導入を行う。

☆「活かす」映像5の最後に、ワーク③の導入映像があります。

<p>Point 初期症状。どう対処していくかを考える。</p>	<p>Point さまざまな症状が出ている。専門家に相談したほうがよい。</p>	<p>Point 目標としていた予定があり、なんとか治さなければならない。</p>	<p>Point 時間がかかる病院への受診は避けたい。</p>
<p>友達が昨日から、熱があって、のどが痛いようです。部活動の大会を1週間後に控え、学校を休みたくないようです。</p> <p>友達のAさんは、「今日は早く寝てゆっくり休むといいよ。」</p> <p>Bさんは、「家の近くに病院あるよね。行ってみたら？」</p> <p>Cさんは、「ドラッグストアで薬について相談してみたら？」</p>			

- 2) 自分の考えは、映像の3人の友達のどのアドバイスに近いかを問いかける。

Point 一つに決め切れないことも想定される。次に行う3)のグループワークで自分の考えを発表しやすくすることがねらい。時間をかけずに行う。

- 3) どのようなアドバイスをすればよいか、もっと良いアドバイスについてグループで考えさせる。

Point これまでの学習や映像教材(有効性や安全性が確認された一般用医薬品とその適切な使用、セルフメディケーションの重要性)を活かして、アドバイスを考えさせる。

「どのような対処が唯一の正解であるか」ということはなく、今後この授業の学びを活かし、各自がセルフメディケーションの視点で自分自身の生活を考え、自分なりに判断していくことが大切であることをおさえる。

●映像教材について

活かす「生涯を通じる健康」で使用。 ※授業進行に応じて、WMVファイルを再生してください。

▶「活かす」映像1_薬をつくる製薬会社の人々_導入(1分5秒)

	<p>ワークの導入映像 製薬会社の6人への取材をもとに、どの人がどの順序で関わっているのかを考えることを伝える。</p>
---	---

▶「活かす」映像2_薬をつくる製薬会社の人々_出題映像(3分50秒)

	<p>4人のインタビュー映像 製薬会社の4人が「働いている場所は?」「どのような仕事?」という2つの質問に対して答えるインタビュー。 ・Aさん(販売) ・Bさん(動物試験、臨床試験、承認審査) ・Dさん(製品企画) ・Eさん(販売後の情報収集) この内容をもとに、改めて順序を考えることを伝える。</p>
---	---

▶「活かす」映像3_薬をつくる製薬会社の人々_正解映像(5分41秒)

	<p>正解映像 手元に届くまでの過程を解説。正しい順番で説明すると同時に、「仕事にかける思い」や「仕事で大切なこと」「学生時代はどんな勉強を?」などのエピソードを紹介。 【開発過程】 ①製品企画(Dさん) ②基礎研究(Fさん) ③動物試験、臨床試験、承認審査(Bさん) ④生産(Cさん) ⑤販売(Aさん) ⑥販売後の情報収集(Eさん) エピソードを通して、以下のことを伝える。 ・医薬品が手元に届くまでには、国の審査を経て、有効性や安全性が確認されていること。 ・承認後も情報を提供したり集めたりして、製品改良に努めていること(副作用への対応)。 ・製薬会社で働く人の「薬づくり」への熱い思いに支えられていること。</p>
--	--

▶「活かす」映像4_医薬品を適切に使用しよう(3分53秒)

	<p>医薬品の適切な使用について説明する映像 「用法・用量を守ること」「説明書をよく読むこと」について、説明書や血中濃度のグラフを用いて解説。</p>
	<p>OTC医薬品について説明する映像 OTC医薬品の分類や、販売に規制があること、そのすべてが国の承認制度により有効性や安全性が確認されたものであることを解説。また、「種類が多いこと」「専門家に相談できること」「自分にあったものを選択できること」というメリットを紹介。</p>

▶「活かす」映像5_高めよう!セルフメディケーションを実践する力(3分00秒)

	<p>セルフメディケーションが社会全体で求められていることを説明する映像 日本が超高齢社会と言われる「長寿国」であり、このままでは現在の医療制度に限界が来てしまうことを解説。そこで、社会全体での医療費を減らし、必要な人が必要な医療を受けられる社会に向けて、セルフメディケーションが注目されていることを紹介。</p>
	<p>ワークの導入映像 友達が昨日から熱があって、のどが痛いようだ。部活動の大会を1週間後に控え、学校を休みたくないという。この友達に対する適切なアドバイスを考えることを伝える。</p>



アリナミン製薬株式会社

2021年4月発行

© 2021 アリナミン製薬株式会社

本ティーチャーズガイドの内容の全部又は一部に関する著作は、アリナミン製薬株式会社が有しています。

著作権法上で認められた利用を除き無断複写・転載を禁じます。

なお、本資料を違法にアップロードする行為は、公衆送信権(送信可能化権)の侵害に該当する可能性がありますのでご注意ください。

